

# Central Daily Market Report

2020年3月16日(月)

セントラル短資株式会社 総合企画部

## ●資金需給

単位: 億円	2020年3月16日	2020年3月17日	2020年3月18日
	需給速報	需給予想	当社予想
銀行券	200	▲ 400	▲ 1,000
財政	600	▲ 600	1,000
資金過不足	800	▲ 1,000	0
金融調節			
	スタート	エンド	スタート
貸出	スタート	エンド	スタート
全店共通	8,800	▲ 10,100	
国債買現		▲ 7,200	
国債売現			
国債買入	2,100		
CP等買入		▲ 300	
貸出支援基金(成)			
貸出支援基金(貸)			▲ 23,500
被災地支援			
社債等買入			
E T F 買入	400		600
国債補完供給	▲ 1,200	2,700	1,200
当増増減	▲ 4,000	800	▲ 23,500
当座預金残高	3,908,400	3,909,200	3,885,700
準備預金残高	3,417,400		
積み終了先	1,582,700		3月17日以降の残り所要積立額
超過準備	882,900		積数 713,100
非準備預金先	491,000		1日平均 23,800
積み期間(3/16~4/15)の所要準備額			3,247,700
準備預金進捗率	実績	78.04%	日数 3.23%

## ●2020年3月16日の市場動向

### <インターバンク市場>

本日の無担O/N物は、積み初日より朝方はレート目線が定まらない中、調達姿勢の違いから出合い水準は▲0.087~▲0.03%とワイドレンジとなった。ターム物は、目立った出合いは見られなかった。また、本日は、金融政策決定会合が前倒しで開催され、金融緩和の強化が図られた。

### <レポ市場>

GC T/N(3/17-3/18)は、▲0.405~▲0.150%程度での出合い。決定会合が前倒しで実施されるとの発表を受け、決定会合終了まで取引は閑散となった。SCはロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。個別銘柄では2Y402~410、5Y136~142、10Y335~357、20Y167~171、30Y59~65、40Y9~12等にビッドの出入りがあった。

### <短国市場>

現先レート(T/N)は、急落。アウトライト市場は、動意なく閑散な中、引け際に6M物が▲0.300~▲0.290%で出合った。

### <CP市場>

現先レートは低位で推移した。発行市場は、鉄鋼や輸送用機器業態でまとまった額の調達が行われ、発行総額は3,700億円程度と償還総額の1,300億円程度を上回り、発行超のマーケットとなった。発行レートについては、先週に引き続き、上昇余地を探る動きが見られた。また、本日は18日、19日に開催予定となっていた金融政策決定会合が前倒しで開催された。CPIについては、CP等買入オベの残高を従前から1兆円拡大し、3.2兆円を上限として買入れることが発表された。(なお増額買入は2020年9月末まで実施)

## ●短期金融市場関連指標

2020/3/16	無担(成物)			有担(成物)			短期		貸出	
	最低	最高	平均	最低	最高	平均	前日	前日	前日	前日
O/N	▲0.087	▲0.001	▲0.068				-	▲0.132		
T/N	▲0.060	▲0.040	▲0.044				-	▲0.215		
S/N							-	-		
1W	▲0.025	▲0.003	▲0.011				-	▲0.215		
2W			0.000				-	▲0.217		
3W							-	▲0.231		
1M			▲0.050				-	▲0.235		
3M							▲0.312	▲0.246		
6M							▲0.304	▲0.249		
1Y							▲0.251	▲0.249		

## ●2020年3月17日の予定

*米国FOMC(1日目)
*米国1月の企業在庫
*米国2月の小売売上高
*米国2月の鉱工業生産・設備稼働率
*国庫短期証券(895回)入札 (1年、19,000億円、3/23発行)

## ●入札結果

名称	回号	表面利率	発行予定額	発行日	償還日	応募額(億円)	募入額(億円)	募入最低額	募入最高利回・利回差	案分率	募入平均価格	募入平均利回・利回差	第1非価格競争入札(億円)
流動性供給	305	-	6,000	2020/3/17		17,855.0	5,995.0		0.0300%	48.9583%		0.0170%	

## ●オペ結果

種類	オペレート(億円)	スタート日	エンド日	貸付利率	返済予定額(億円)
国債補完供給(国債売現先)・即日(午前オフア一分)		2020/3/16	2020/3/17	▲0.350	1,068
国債補完供給(国債売現先)・即日(午後オフア一分)		2020/3/16	2020/3/17	▲0.350	140
種類		スタート日	エンド日	貸付利率	返済予定額(億円)
貸出増加支援オペ		2020/3/18	2024/3/18	0	41,458

## ●日銀金融政策決定会合・結果

●新型コロナウイルス拡大の影響を踏まえた金融緩和の強化を決定  
 1. 新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、世界経済の不透明感が高まり、内外金融資本市場では不安定な動きが続いている。こうしたもて、わが国の景気は、このところ弱い動きとなっている。また、金融環境も中小企業の資金繰りなど企業金融の一部で緩急度合いが低下している。2. こうした情勢を踏まえ、日本銀行は、企業金融の円滑確保に万全を期すとともに、金融市場の安定を維持し、企業や家計のコンフィデンス悪化を防止する観点から、①国債買入れやドルオペを含む潤沢な資金供給の実施②新たなオペレーションの導入を含めた企業金融支援のための措置③ETF・J-REITの積極的な買入れにより金融緩和を強化することが適当と判断した。3. このため、本日の政策委員会・金融政策決定会合では、以下の決定等を行った。  
 (1) 一層潤沢な資金供給の実施  
 積極的な国債買入れなどのほか、(2)、(3)の手段も活用しつつ、当面、円資金の一層潤沢な供給に努める。米ドル資金については、本日、日本銀行は、カナダ銀行、イングランド銀行、欧州中央銀行、米連邦準備制度およびスイス国民銀行と協同して、資金供給オペについて、貸付金利を0.25%引き下げるとともに、これまでの1週間物に加え、3か月物を週次で実施することを公表した。これにより、米ドル資金の流動性供給にも万全を期す方針である。  
 (2) 企業金融支援のための措置  
 ①新型コロナウイルス感染症にかかる企業金融支援特別オペの導入(全員一致)民間企業債務を担保(約8兆円<2020年2月末>)に、最長1年の資金を金利ゼロ%で供給する新たなオペレーション(残高の2倍の金額を「マクロ加算残高」に加算)を導入する。同措置は、2020年9月末まで実施する。  
 ②CP・社債等買入れの増額(全員一致)  
 CP・社債等の追加買入枠を計2兆円設け、CP等は約3.2兆円、社債等は約4.2兆円の残高上限に買入れを実施する。増額買入れは、2020年9月末まで継続する。(追加買入れ枠以外の既存のCP等、社債等については、引き続き、それぞれ約2.2兆円、約3.2兆円の残高を維持する)  
 ③ETF・J-REITの積極的な買入れ(全員一致)  
 ETFおよびJ-REITについて、当面は、それぞれ年間約12兆円、年間約1,800億円に相当する残高増加ベースを上限に、積極的な買入れを行う。(ETFおよびJ-REITの原則的な買入れ方針としては、引き続き、保有残高が、それぞれ年間約6兆円、年間約900億円に相当するペースで増加するよう買入れを行い、その際、資産価格のプレミアムへの動きかけを適切に行う観点から、市場の状況に応じて、買入れ額は上下に変動しうるものとする)  
 4. 次回金融政策決定会合までの金融市場調節方針については、長短金利操作(イールドカーブ・コントロール)のもとで、これまでの方針を維持する(賛成7反対2)  
 短期金利: 日本銀行当座預金のうち政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用する。  
 長期金利: 10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、長期国債の買入れを行う。その際、金利は、経済・物価情勢等に応じて上下にある程度変動しうるものとし、買入れ額については、保有残高の増加額年間約80兆円をものとしつつ、弾力的な買入れを実施する。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
 ◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
 ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録書等をよく読みください。  
 セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入